

2007年12月3日

＜容器包装リサイクル法とその他プラのリサイクル＞

平尾雅彦先生(東京大学工学部化学システム工学科)／二回目

講義要旨

第一回目の授業で触れることのできなかつた PET ボトルリサイクルの LCA 評価と、一般の容器包装プラスチックの話をする。

PET ボトルのリサイクルによる環境負荷は、LCA によって定量的に測定できる。しかし実際には自治体ごとの回収状況、消費者の排出方法などの社会システムがどのように機能しているかという、LCA で測れない部分も重要である。

現在の容器包装リサイクル法では費用の問題が中心に論じられ、PET ボトルのリサイクルシステムを確立できていない。一般の容器包装プラスチック、すなわち「その他プラ」のリサイクルも PET ボトルと同じく課題がある。政治上の問題や費用負担の問題から LCA による定量的評価が機能せず、マテリアルリサイクルが優遇される状況となっている。そのマテリアルリサイクルで作られるものも、木材で代替可能な低品質のパレットが中心だ。

LCA にも評価の難しさが存在するのは事実だが、ケミカル、サーマルなど様々なリサイクル方法を検討した上で、消費者や自治体を巻き込んだ十分な機能性のあるリサイクルシステムを作り上げていく必要があるだろう。